

施策評価シート

【施策の概要】

登録者(課長)名【1】		ごみ減量推進課 原島 誠	
主管課(関係課)【2】		ごみ減量推進課	
施策名【3】		分野【4】	
環2-2 循環型社会の構築		持続可能な環境に配慮した社会を確立するために	
まちはづくりの方向性【5】		環境にやさしいまちはづくり	
概要		<p>施策全体の課題【6】</p> <p>循環型社会を構築するため、本市では家庭ごみの有料化や、生ごみ電動処理機などの購入助成、冊子などによる啓発活動や出前講座等を進めてきた結果、市民意識の向上やご理解・ご協力により、市民一人一日当たりのごみの排出量とリサイクル率が全国でもトップクラスとなっています。今後は、市民、事業者、行政によるごみの発生抑制やごみの減量化をさらに推進するとともに、発生したごみの再使用・再生使用を促進し、循環型社会の構築に取り組むことが求められています。このため、エコプラザ西東京を拠点とした循環型社会構築のための啓発活動を充実させるとともに、市民の自主的な取組に対する支援、ごみ収集に関する事業者への対応の強化といった多面的な取組を展開していくことが必要です。</p> <p>留意すべき点(都などの制度の変化・その他制約条件・社会環境の変化)【9】</p> <p>◇平成25年4月より「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」が施行され、レアメタルなどの有用金属の再資源化を促進するための措置を講じることにより、廃棄物の適正な処理及び資源の有効な利用の確保を継続して図る必要があります。</p>	
事業群名【10】		事業群の施策上の位置づけ【11】	
1 1 1		1 1 1	

【施策の成果】

				年度		24	25	26	27	28	29
成果指標【12】	指標1	名称	「ごみの減量化やリサイクルの推進など循環型社会の構築」に対する満足度	目標値	56%			単位	%		
		算出式・説明	持続可能な社会を構築するために、市が行っている「ごみの減量化やリサイクルの推進など循環型社会の構築」の取組に対する評価を、市民意識調査の「市民満足度」により把握します。	実績値	52.9	52.9	52.9	51.6	51.6	49.5	
		達成率		94%	94%	94%	92%	92%	88%		
		名称	一人当たりのごみ収集量(ごみ原単位)	目標値	559 g			単位	g		
	指標2	算出式・説明	ごみの発生抑制や減量化の取組の効果を知るうえで、一人当たりのごみ収集量の把握は重要です。一人当たりのごみ収集量を減らすことを目標とします。	実績値	567.1	575.2	569	562.2	549.7		
		達成率		99%	97%	98%	99%	102%	0%		
	指標3	名称	資源化率	目標値	36%			単位	%		
		算出式・説明	平成24年3月に策定した一般廃棄物処理基本計画では、平成33年度における資源化率の長期目標を37.1%と設定しています。今後も引き続きこの資源化率の水準を達成できるよう、ごみの再使用・再生使用の促進に取組みます。	実績値	33	33.7	33.5	33.7	33.6		
		達成率		93%	95%	94%	95%	95%	0%		
	指標4	名称		目標値				単位			
		算出式・説明		実績値							
			達成率の平均値			95%	95%	95%	95%	96%	29%

【市民意見】【13】

24年度		27年度		29年度	
満足度(%)	52.8%	満足度(%)	51.6%	満足度(%)	49.5%
満足度(平均ポイント)	0.33	満足度(平均ポイント)	0.35	満足度(平均ポイント)	0.35
重要度(%)	85.6%	重要度(%)	84.6%	重要度(%)	81.9%
重要度(平均ポイント)	1.46	重要度(平均ポイント)	1.39	重要度(平均ポイント)	1.39

各年次の市民意識調査で、施策ごとの「満足、やや満足」「重要、やや重要」の合計値として算出しています。

【一次評価】

検証項目	施策の成果と課題	施策成果の目標達成状況【14】	<input type="checkbox"/> まだ未達成	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	<input type="checkbox"/> 目標を大きく上回る	
		意識調査での満足度【15】	<input type="checkbox"/> 平均を下回る	<input type="checkbox"/> ほぼ平均	<input checked="" type="checkbox"/> 平均を上回る	
検証項目	今後の方針	施策の重要性の変化【17】	<input type="checkbox"/> 弱くなっている	<input checked="" type="checkbox"/> 以前と同程度	<input type="checkbox"/> 強くなっている	
		意識調査での重要度【18】	<input type="checkbox"/> 平均を下回る	<input type="checkbox"/> ほぼ平均	<input checked="" type="checkbox"/> 平均を上回る	
総合評価	今後の方針	施策内容の方向性【20】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 絞込み	
		施策実施コストの方向性【21】	<input type="checkbox"/> 重点化	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 効率化	
		施策実施方針【22】	V 成果を維持しつつ、コストも現状を維持する施策領域			
説明【23】		<p>◇小型家電の回収については、有用金属が多く含まれているため、回収した小型家電を分解し、付加価値を高めて売払いを行っており、平成28年度から新たに高値で取引される基板を取り出し、売払いを行うことで成果を上げています。一方、それ以外の小型家電の処分については、近年、金属価格の変動やプラスチック等の雑物処理費用の高騰などにより、平成28年度から委託処理業者との売払い金額が無償となっていることが課題です。</p> <p>◇中間処理施設へ搬入している可燃ごみの減量及び資源化を図るため、剪定枝や生ごみの無料回収事業を行い、剪定枝は平成27・28年度は500tを回収し、平成29年度は600tを回収する予定です。生ごみは、平成27・28年度は250世帯を対象に回収し、平成29年度は300世帯へ拡大し回収する予定です。</p> <p>◇可燃ごみの減量については、平成28年度より更なるごみの減量施策として、可燃ごみの中に多く含まれている雑紙類を資源物として排出していただくため、新聞紙を利用し雑紙袋を4,700枚作成し市民の皆様様に配布しました。</p> <p>◇粗大ごみの受付については、平成27年7月からファクシミリによる受付、10月からはメールによる受付を開始し、24時間の受付が可能となりました。しかし、利用率としてはまだ電話による申込率が高く、時期によっては繋がりがづらい課題があります。</p>				
【一次評価後の事情変更等】		説明【23】				
【行革本部評価】		<p>総合評価</p> <p>施策内容の方向性【20】 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み</p> <p>施策実施コストの方向性【21】 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 効率化</p> <p>判断理由等【24】 循環型社会の構築については、小型家電や資源物の回収、剪定枝・生ごみなどの再資源化などを実施するとともに、電話のほかファックスやメールによる粗大ごみの24時間受付などのサービス向上に取り組んできました。市民意識調査結果では、前回調査と比べ満足度・重要度に大きな変化は見られませんが、施策成果の目標はほぼ達成しています。ごみの減量に向けた取組は、市民の協力のもと進める必要があります。最適なごみ収集ルートの見直しのため、平成29年度からごみ収集業務最適化システムの導入に取り組んでおり、実施コストの抑制に努めるべきと判断しました。今後は、そうした取組による財政効果を十分見極めながら、資源ごみの戸別収集の検討や、食品ロスの削減を含めた、可燃ごみの減量化に取り組む必要があります。</p> <p>施策実施方針【22】 VI 成果を維持しながら、コストを抑制する施策領域</p>				

【施策内の事務事業貢献度判定】

環2-2 循環型社会の構築

事業群	名称【25】	担当課【26】	概要【27】
1	資源循環型社会の推進	ごみ減量推進課	剪定枝の回収や生ごみの回収などを行い、可燃ごみの削減及び資源化を進めるとともに、家庭用小型電子機器類の再生使用化を行うことにより、資源循環型の社会を推進していきます。
	ごみ収集業務最適化システムの導入に向けた調査・検討	ごみ減量推進課	最適な収集ルート検討のため、ごみ収集業務最適化システムの導入に向けた、調査・検討を行います。
	環境美化に向けた取組の推進	ごみ減量推進課	路上喫煙の防止やポイ捨ての防止地区を指定して、清掃や美化・喫煙マナー推進員の見回りにより、まちの美化と安全を推進していきます。現在、4駅を防止地区に指定しています。年5回市内5駅において、環境美化キャンペーンを実施しています。
事業の合計			

総コスト(千円) : 評価年度【28】	事務事業の評価(直近)【29】		26市のサービス水準との比較【30】	施策における位置づけ【31】	貢献度【32】
	事業費	人件費			
109,331	42,360	66,971	改善・見直し(平成28年度)	中	可燃ごみとして焼却する剪定枝や生ごみ、捨てられてしまう貴金属類を資源化、再生使用することにより循環型社会を推進します。
26,204	14,904	11,300	事業化(平成28年度)	—	平成29年度に、GPS機能付きタブレットを直営・委託業者収集車両に搭載し客観的なデータの収集を行い、最適な委託台数及び収集ルートを策定します。
10,936	7,446	3,490	継続実施(平成28年度)	中	市民からは路上喫煙に対する苦情などもあり、まちの美化と安全をさらに推進していく必要があります。
146,471	64,710	81,761			